

【総評】三年目の大きな感動

子どもたちの成長に拍手！

柳田 邦男

「あらかわ子ども読書フェスティバル」の行事の一つとして、「柳田邦男絵本大賞」が設けられて、三年目になった22年度は、心に響くしつかりした内容のお手紙（絵本感想文）がこれまでに多く、大きな感動を受けました。入選作にしたいと思いつながら、入選作品数に決まりがあるため、入選作にできなかった感想文がたくさんありました。

今回の感想文には、入選外のものも含めて、いくつもの特徴がありました。

一つ目は、絵本の物語や主人公に、自分自身の悲しい経験を重ね合わせて、自分の心を見つめ直し、考え方や

生き方を変えようと決心したことを書いた感想文が多かったことです。おじいちゃんが亡くなって泣いてばかりいたけれど、『なきすぎではいけない』という絵本から、自分がおじいちゃんの立場になったら、子どもや孫には笑って命のボタンを受け取ってほしいと思えるようになった峡田小学校六年の鈴木美南さん。

また、小さいころ入院ばかりしていたので、絵本の『いもうとのにゆういん』に共感し、下級生にやさしい思いをこめて読み聞かせをした峡田小学校五年の谷口菜々さんや、実際に自分の妹が入院した経験とその絵本を重ねることで、家族の大切さに気づいた汐入東小学校二年の松崎結衣さんなど、私は胸が熱くなりました。

二つ目は、自分以外の人、とくに障がいがあって不自由な人に対し、自分がその立場になったらどうだろうと考えるきっかけを、絵本から感じ取ったという感想文も

多かったこと。絵本『どんなかんじかなあ』から、目が見えない人、耳が聞こえない人、両親がいない人などがすばらしい生きる力を持っていることを知っただけでなく、日常の中で相手の人が今どんなことを考えているのかを推測し配慮することの大切さに気づいた峡田小学校六年の田中豪君や、『くまさぶろう』を読んで、相手の心を盗むのでなく、相手の気持ちにくみとってあげられるようになるうと思うようになった第二瑞光小学校一年の洲崎凱天君などが、そうです。

三つ目は、絵本から勇気を持つヒントに気づいたり、自分の欠点に気づいたりして、自分を変える決心をしたということを書いてくれた子どもたちが少なくなかったことです。

絵本『あの森へ』のねずみ君から、難しいことでもチャレンジする勇気を学び、バレエのピルエットができる

ようになった汐入東小学校五年の荻野莉理さんや、『ちいさなクレヨン』を読んで、短くなったクレヨンでも捨てないで使い切ることや物をなくさないようにすることを心がけるようになった汐入東小学校六年の高橋理彩さんなど、よく頑張りましたね。

この他にも、大人の部を含めて、いろいろな特徴がありました。それは入選者一人一人に対する私の評から読み取ってください。今回は、多くの子どもたちが絵本をとおして、それぞれにいろいろな気づきをして、心が一步も二歩も成長したことを感じて、とても感動しました。もちろん、すごく面白かったと、絵本の楽しさを書くだけでもいいのですが、その場合は、具体的にどこがどのように面白かったのかを書いてくださいね。今年の秋、どんな感動のお手紙をいただけるのか、楽しみにしています。